

業界初の新技術で新しい位相差フィルムを上市

2007年10月15日

日本ゼオン（株）（社長 古河直純）は、100%の子会社（株）オプテス（社長 若松憲明）の富山工場において、新ゼオノアフィルムの新しいグレードとして、ZDシリーズ（斜め延伸位相差フィルム）を上市する。

この新技術の製品ZDシリーズは、位相差フィルムの打ち抜き、貼り合わせ等の工程が大幅に改善されると共に、偏光板に使用されている保護膜の削減も可能となるため、トータルコストダウンと偏光板ユニット製品の薄型化が可能となる。

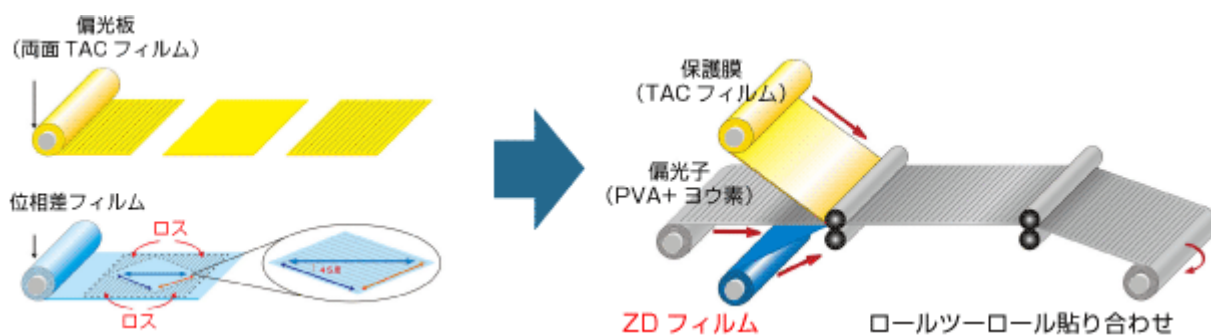
位相差フィルムは、液晶ディスプレイの光学補償として使用されるが、一般には透明なポリマーフィルムを縦または横に延伸して製造される。しかし、従来の技術では、位相差フィルムと偏光板の貼り合せ工程では、位相差フィルムの打ち抜き、バッチでの貼り合せ方式が主流であり、連続での貼り合せ方式であるロールツーロール方式が採用できる液晶モードは限られていた。今回開発した技術は、分子の配列方向を自由に制御できるところが大きな特徴であり、すべての液晶モードに対応して、位相差フィルムと偏光板のロールツーロール貼り合せが可能となる。

主としてこれまで原反フィルムの販売先である、中小型の携帯電話・ゲーム機用途向けからスタートするが、この技術の応用範囲は広く、今後大きく展開させてゆく。

オプテス富山工場高岡製造部（富山県高岡市二上新）に5,000千m²/年の生産設備を設置し、実機での開発を進めて来たが、この度ユーザーの評価で実用化の目途が付き正式販売に至った。

補足説明

1. 貼り合せ工程をバッチから連続化



画像1

2. 保護膜 (TACフィルム) の削減で薄型化



✉ 本件に関するお問い合わせ

日本ゼオン株式会社 CSR統括部門 広報室
Tel : 03-3216-2747

▶ お問い合わせフォーム